

令和7年度事業計画

定款第38条（事業計画及び収支予算）に基づき、理事会で承認された
本会の令和7年度の実業計画について報告するものである。

1. 会 員 拡 大
2. 運営・広報事業
3. 国際関係事業
4. 催 物 事 業
5. 設立50周年記念事業
6. 調査研究事業

令和7年度事業計画

令和元年度に策定したJTAビジョンを踏まえ、そこに取り上げた事項の実現に向けた諸活動を行うとともに、活動の活性化を図る。調査研究事業では、トンネルや地下空間の建設及び維持管理に関する当面の課題や会員からのニーズに積極的に応える。催物事業においては、講演会、施工体験発表会、現場研修会（見学会）、講習会等を実施し、技術者育成のための機会や情報を提供する。国際関係事業においては、ITA加盟国の代表機関として関係諸国との技術交流に努める。また、広報活動においては、ウェブサイト情報の充実やメールマガジン、会誌、図書の頒布を通じて、トンネル技術に関する情報等を会員及び社会に広く広報する。

1. 会員拡大

会員から意義ある活動を行う団体としての期待に応えるよう努めるとともに、会員価値を高め、会員間コミュニケーションの向上を図る活動を行っていく。これらの諸活動を通じて、幅広い分野から個人、関係法人、学生等の会員加入を促進し、協会活動の活性化並びに事業の運営基盤の安定を図る。

2. 運営・広報事業（総務委員会）

本会活動の全体調整、予算・決算に関することや委員会活動の把握など、本会の事業目的を達成するための運営管理を行う。

また、本会の活動内容や各種研究成果の広報活動を行うとともに、会誌「トンネルと地下」に関して会報欄、巻頭言、現場便り等について編集作業を実施し、また会誌としてふさわしい内容か否かについて確認を行う。

(1) 事業運営上の重要事項の検討

- ①令和元年度に策定した JTA ビジョンに基づき、そこに取り上げた事項に関する進捗状況を確認するとともに、諸活動を実施する。
- ②技術者育成支援のため、アクセスしやすい教育・訓練環境の構築を目指した「自主学習支援サイト」の実施方法・内容について引き続き検討するとともに、会員に限定した発信情報の充実、刊行物等の各種デジタル情報の提供等に関する検討を実施する。

③研究助成を引き続き実施するとともに、JTA 表彰に関して制度拡充について検討する。

(2) 本会の広報活動

④広報の強化や会員の情報アクセスの向上などを図るための検討を引き続き実施し、順次、実行に移していく。

⑤メールマガジン、SNS、協会ウェブサイト、会誌「トンネルと地下」等により、広報活動の充実に努める。

⑥各種委員会の研究成果である貴重な技術情報の活用を図るため、その広報に努める。

3. 国際関係事業（国際委員会）

ITA 活動等への参加などを通じて、トンネル技術に関する各国の情報収集、わが国からの情報発信及び国際協力に努める。

①2025 年 5 月に開催される第 51 回 ITA 総会・WTC2025（スウェーデン・ストックホルム）に参加するとともに、第 52 回 ITA 総会・WTC2026（カナダ・モントリオール）への対応方針について検討する。

②わが国のトンネル技術の存在感や影響力を国際的に高めるため、わが国で ITA 理事会を開催するとともに、それに合わせ、また設立 50 周年記念事業の一環として、国際トンネルセミナー（講演会）を開催する。

③トンネル技術に関する海外の雑誌の記事を抽出・翻訳し、会誌やウェブサイトで紹介する。

④海外向け広報誌「Tunnelling Activities in Japan 2026」の編集作業を開始する。

⑤海外に向けた情報発信を強化するため、引き続き英文ウェブサイトを充実する活動を実施する。

4. 催物事業（事業委員会）

当面する技術課題を踏まえた各種催物を企画し、トンネル関係の人材育成のための機会や情報を提供するとともに、トンネル関係者の実務上有益な知識の向上を図る。

なお、本年度は設立 50 周年記念事業のイベントを実施するため、それらと調整しながら開催する。

①国内の鉄道、道路、電力、地下鉄、下水道等、各種トンネル工事現場での研修会（見学

会)を計画的に開催する。

②施工体験発表会の山岳トンネル部門、都市トンネル部門を、それぞれ課題を設定して、会場とリモート参加を併用したハイブリッド形式で実施する。

③トンネル技術ステップアップ研修会(山岳部門、シールド部門)の次回開催について企画し、次年度早期に実施する。

④山岳トンネル維持管理業務講習会の基礎編及び実践編を会場とリモート参加を併用したハイブリッド形式で実施する。

⑤昨年度に引き続き、時宜に叶ったテーマを取り上げて、誰でも自由に聴講できる講演会をリモート形式で実施する。

5. 設立50周年記念事業(設立50周年記念事業実行委員会)

本年度(2025年度)に本会は設立50周年を迎えるため、記念事業を以下のとおり実施する。

①前年度に実施したフォトコンテスト、アイデアコンテストの表彰式を開催するとともに、入賞作品の作品集を作成する。なお、入賞作品は「トンネルと地下空間展」において展示する。

②令和7年度定時総会時に、特別講演会(JAXAの春山助教による「月の地下のトンネル」)を実施する。また、10月にトンネル保守管理特別講演会を「維持管理の現状と最近の話題」と題して開催するとともに、本年度中に海外関連の講演会等の国際イベントを実施する。

③「トンネルと地下空間展」と題する技術展示会を、8月に新宿駅西口広場イベントコーナーで開催する。

④7~8月に親子見学会を横浜環状南線釜利谷庄戸トンネルと新名神高速道路宇治田原トンネルの2か所で実施するとともに、8~9月に関係者向けの見学会を青函トンネル、東京湾アクアラインの2か所で開催する。

⑤技術伝承の一環として、関係者から提供を受けた映像資料ライブラリーを整理する。

⑥JTA50年のあゆみを刊行するとともに、NATM及びシールドの技術変遷史の編纂作業を開始する。

⑦会誌記念特集号の企画と編纂を実施する。

6. 調査研究事業

6－1）技術委員会

今日的な課題や会員のニーズを把握するため情報収集に努め、その結果を調査研究に反映するとともに、多様な分野の会員の参画を求めて活動を実施する。

各小委員会の活動計画の概要は、以下のとおりである。

(1) 共通技術小委員会

①ウェブサイトの資材機械検索リストの内容の充実を図るため、更新作業を継続実施する。

(2) 山岳工法小委員会

②過年度に引き続き、自動化・生産性向上に関わる支保工の課題について、意見交換、情報収集を実施する。また、団体会員加入会社から支保材料や施工法の話題提供について申し出があった場合、内容がふさわしいものについては積極的に話題提供を募集する。

③前年度に引き続き、「トンネル地質図の見方」について課題の抽出・整理や検討を実施する。

(3) 都市トンネル小委員会

④シールド工事における新技術について、本会ウェブサイト上に技術情報検索ツールを作成し、会員に情報を提供する。

⑤シールド工事のトラブル事例について、想定を含むトラブル事例集を作成し、会員に情報を提供する。

(4) 安全環境小委員会

⑥肌落ち災害防止対策について、対策事例アンケート調査結果をとりまとめ、会員に情報提供を行う。

⑦自然由来の重金属を含むトンネルのずり処理対策事例について、アンケート調査結果をとりまとめ、会員に情報提供を行う。

(5) 保守管理小委員会

⑧前年度に引き続き、トンネル維持管理業務講習会の基礎編および実践編について、こ

れまでのアンケート結果等を踏まえて見直し、維持管理に携わる技術者育成の一助となるように企画、実施する。

⑨前年度に引き続き、トンネル点検の新技术に関する情報交換を行うとともに、その内容を「トンネル維持管理に関する最近の取組事例」として整理し、会員に情報提供する。

⑩維持管理業務の重要性を鑑み、設立50周年記念の特別講演会を企画し、10月に実施する。

(6) 技術変遷史編集小委員会

⑪本会の設立50周年を機にトンネル技術の変遷史を取りまとめるため、「技術変遷史編集小委員会」を設置する。

⑫上記小委員会にシールド工法を主体とした「シールド変遷史編集ワーキンググループ」と山岳トンネルを対象とした「山岳変遷史編集ワーキンググループ」を設置し、過去に取りまとめた変遷史を参考とし、1～2年を目途に編纂作業を実施する。

6-2) 受託研究委員会

これまでに蓄積されたトンネル技術に関する成果を踏まえ、委託者（発注者）の期待に応えるように調査研究を実施する。